

自己評価報告書(最終報告)

報告者

自然系コース(理科)
／今倉 康宏

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれている必要がある。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

○教師を目指す学生の教職(教科)の専門性と教育実践力を身につけることを目標として、①授業内容、②教育実践、③成績評価について以下の課題を推進する。

①授業内容:

*身近な素材を使った専門研究とその研究を活かした広領域型科学実験教材の開発能力を培う授業を推進する。

*教師としての教科専門性を培い、教育実践力を育てることに配慮した授業を推進する。

②教育実践:

*専門性を活かした実践力を身につけるための教材をできるだけ多く提案し、小学校・中学校・高等学校で実践を行う機会を設ける。

*学部生・院生に現場の教師と共に指導者として参加し、高度な教職の専門性と教育実践力を身につけるキャリア教育を推進(SPP, SSH, Jr. サイエンスなど公的資金を獲得する)

③成績評価:

*専門知識の理解度(ペーパーテスト、発表・討論)の確認と共に高度な科学技術と科学的に探究する能力を身につけ科学のおもしろさを体験させ、教科の専門性とその実践能力を評価する。

2. 点検・評価

①授業内容:

*身近な素材として藍(すくも)を用いた化学実験教材を提案し、酸化還元を理解するための専門の知識を培い、児童・生徒の興味関心を高める実践方法を取り入れた授業を重点的に推進した。受講した学生には、小中高への実験授業案を作成させるなど教職の専門性と教育実践力を身につける機会を提供した。

成績評価:

*ペーパー試験と共に実践能力と専門教科の理解度を総合的に評価することができた。

【実施例】

1)ペーパー試験・指導案作成と発表 2)学部生・院生にSPP, SSHなどの公開講座などに参加する機会を儲け(各1~2回実施)、学校現場の教師と共に指導者として参加させ、高度な教職の専門性と教育実践力を身につけるキャリア教育を計画通り推進できた。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

○学部生・院生にTAとして参加できる小学校・中学校・高等学校での教育実践および公開講座の機会を提供する。

○教室に配属された学部生・院生に教員採用のための助言と勉強できる環境を整える。

○学部生・院生の研究室での健康管理に務めるとともに、生活環境状態に注意し、積極的に学生の教育・生活を支援する。

2. 点検・評価

- * 学部生・院生がTAとして参加できる小学校・中学校・高等学校での教育実践および公開講座の機会を提供した。(教職の専門性と教育実践力の養成)
- * 私の研究室に配属された学部生(1名)・院生(1名)に教員採用のための助言と勉強できる環境を整えた。その結果、教員採用試験試験に学部生(香川県・小学校), 院生(大阪府・高等学校)は合格し、4月から教員として勤務予定である。
- * 学部生・院生の進路相談と生活環境状態に注意し、健康管理に務めた。

II-2. 研究

1. 目標・計画

- 身近な素材を用いた異分野を効果的に関連・融合させた広領域型科学実験教材の開発(教師または教師を目指す学生の科学的素養と高度な科学技術や教育技術を培う科学実験プログラム教材の開発)
- 学習者(教師)がそれらの学習資源を効果的に活用できる大学、公的研究機関、民間企業等と学校現場との連携を密にする環境整備を推進し、教育現場での学習効果の高い実践方法の提案。
- 文部科学省における理科大好きプランの事業に積極的に応募する。
例えば、SPP, SSH高への支援、他大学との連携による資金獲得(「サイエンスエンジニアリング(SEC)」の創設)など。
- 科学研究費補助金への応募(代表者・研究分担者として)

2. 点検・評価

- * 身近な素材(藍(すくも)、緑色蛍光物質・ロズマリーなど)を用いた異分野を効果的に関連・融合させた広領域型科学実験教材の開発と実践
その成果を学会発表・学会誌へ投稿または準備をしている。
- 【発表論文】
 - 科学的に卓越した人材育成を支援する先進的科学教育の展望～「知」の創造から活用までを考慮した科学・技術教育を推進する仕組みの提案～
科教研報, Vol.26, No.1, (2011), 日本科学教育学会
 - 教員免許状更新講習における教師のための科学実験プログラムの展望
科教研報, Vol.26, No.1, (2011), 日本科学教育学会
 - * 学校現場との連携のための環境整備を推進し、教育現場での学習効果の高い実践方法の提案をしているところである。(基盤研究(B)に応募、徳島県内の大学、県センター間の連携構築推進)
- 【実践例】
 - * 城南高等学校, 徳島市立高等学校, 附属中学校, 附属小学校, 免許更新など

II-3. 大学運営

1. 目標・計画

- 本学発展ための教育改革には積極的に協力する。
- 大学院生確保のための努力をする。
- 附属学校部長として本学の運営に貢献し、特に大学と附属校間の連携充実をはかる。
- 教員採用率を高める業務(学生支援)を推進する。

2. 点検・評価

- * 本学発展ための教育改革には積極的に協力した。
- * 大学院生確保のための努力をした。
理科コースに入学する2人の院生(知人の私大の先生にお願いして)を確保した。
- * 附属学校部長として本学の運営に貢献し、特に附属学校の充実と教員採用率を高める業務に協力し、附属学校と大学間の連携協力を努めた。また、学長の懸案であった各附属学校園の研究会を大学との共催で開催をすることにした。
山下理事との共同で、附属学校と教育委員会との連携の充実を図り、山下理事のご協力のおかげで、附属学校と教育委員会間の人事交流がスムーズに実施されたとの附属学校(園)長から感謝されている。
更に、大学と附属学校間の連携の構築とともに学長の意図している大学と附属学校間の教育研究のあり方(改革)に着手し両者の協力関係の促進に貢献した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

○他大学と連携による「サイエンスエンジニアリング(SEC)」の創設の推進をはじめ, 大学と地域社会との交流を積極的に行い, 社会に貢献していきたい。
○これまでと同様に附属学校および教員への理科教育分野について協力すると共に附属学校部長として附属学校間の連携と充実を支援する業務に専念する。
○本学の重要課題の一つである「予防科学」の推進における大学と附属学校間連携の仲介に力を注ぎ基礎作りに貢献する。

2. 点検・評価

* 他大学との連携による「サイエンスエンジニアリング(SEC)」の創設の推進をはじめ, 大学と地域社会との交流を積極的に行い, 社会に貢献しているところである。
24年度の科研(基盤研究B)に本学が主となり, 各大学(徳大・四国大学・文理大学・鳴門教育大学など), 徳島県教育センター, などを含めた研究実践に関する研究をまとめ応募した。
* 附属学校および教員への理科教育分野について協力推進。
学長裁量経費により, 小中学校の理科教員との研究を推進し, 教育研究連携の方法を模索し, 研究成果をでまとめ提案することができた。中学校では, この研究を基本として, 本年も昨年に続き, 文科省の企画に応募して認定校として採用され, 外部資金の獲得に貢献した。
* 附属学校部長として附属校園の充実と大学との連携強化に努める。
「Ⅱ-3. 大学運営」で述べたように成果をあげつつある。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

個人に関する評価として, 上記で述べたように, 平成 23 年度の目標・計画は, ほぼ達成することができ, 満足している。
一方, 「附属学校部長として附属校園の充実と大学との連携強化に努める」という課題では, 順調に推進できていると思っているが, まだまだ推進しなければならない課題が多く, それらを一つ一つ解決し, 更なる本学の発展に貢献したいと思っている。